例年実施している小学生を対象とし海洋における夢や期待を描く「ハガキに書こう海洋の夢コンテスト」を実施した。また、同コンテスト入賞者の海洋調査船「なつしま」体験乗船（7 月 27～31 日、駿河湾）、高校生、大学生を対象としたイベントである「ブルーアースアカデミー」（3 月 24～26 日）を研究者・技術者の協力のもと開催し、次世代の人材育成にも貢献した。

（3）成果の情報発信

第 3 期中期計画期間における論文発表数の目標値は、第 2 期中期計画に引き続き、年間平均 960 報以上と定めることとした。これは第 2 期中期計画初年度である平成 21 年度当初の研究者/技術者数と第 3 期中期計画策定時の平成 25 年度末の研究者/技術者数が同数程度であることから策定された値である。平成 26 年度の論文発表数は 917 件だった。また、論文の査読率は、約 8 割程（査読付割合 78%）であり、中期目標に定める目標値の 7 割を達成している。また、関連分野における投稿論文の平均被引用率は 6.37 であり、昨年度実績 6.32 を維持している。学会発表件数は口頭発表 1,523 件、ポスター発表 308 件と 2,131 件となった。

機構に所属する研究者業績等の情報を積極的に外部公開するため、「研究者総覧」の構築を平成 25 年度に続き進めている。平成 26 年度は研究者/技術者の意見を基に概念設計を検討するとともに、画面操作性の確認を実施した。また、他機関（研究開発独法及び大学等）の動向を確認した。外部の閲覧者が JAMSTEC の研究者情報や研究内容を俯瞰できるようなデザインにするとともに、研究者が社会に向けて情報発信しやすいシステムを目指して検討を進めている。

研究開発成果の情報発信としては、シンポジウムや研究報告会及びセミナー等を計 287 件主催または共催として開催した。中でも最大規模である平成 26 年度研究報告会「JAMSTEC2015」では主に民間企業、大学関係者等から 397 名の出席があった。

機構独自の査読付き論文誌「JAMSTEC Report of Research and Development」（以下、JAMSTEC-R）については、第 19 巻（掲載 6 編、70 ページ）及び第 20 巻（掲載 5 編、75 ページ）の 2 巻を発刊した。その冊子については国内 236 機関、海外 23 機関に送付すると共に、JAMSTEC 文書カタログにてインターネットで公開した。

「AGU Fall Meeting」、「JAMSTEC2015」、「Blue Earth シンポジウム」等では「JAMSTEC-R」広報ポスターを作成し、認知度向上をはかった。

JAMSTEC-R については、平成 23 年度より科学技術振興機構（JST）提供のシステム J-STAGE でも公開し、平成 26 年度末までに 99 編が掲載されている。ここでのアクセス数（PDF ダウンロード数含む）は平成 24 年度で 1,564、平成 25 年度は 3,838 となっており、平成 26 年度は 5,379（前年比 140%）を達成した。

4　世界の頭脳循環の拠点としての国際連携と人材育成の推進

（1）国際連携、プロジェクトの推進

地球観測に関する政府間会合（GEO）ワークプランシンポジウムに出席し、国際組織及び各国観測機関関係者と観測の展望及び次期 GEO のあり方を議論した。また、GEO 第 11 回本会合に出席し、情報を収集した。GEOSS アジア太平洋シンポジウムでは機構が議長機関を務めた海洋観測分科会の事務局として運営と議論のまとめを支援した。同時に、これらの会議において機構の活動をアピールする展示を行った。

日独二国間科学技術協力協定に基づき平成 26 年 9 月にドイツ/ブレーメンにおいて第 1 回日独海洋科学 WS が開催され、機構より研究者及び技術者計 7 名が参加し、発表及び意見交換を行った。また、日諾二国間科学技術協力協定に基づき、平成 27 年 2 月にノルウェー/オスロにおいて第 5 回日諾科学技術協力合同委員会が開催され、機構からは研究者 2 名が参加し、水産に関する既存の両国間の重点分野を海洋研究に広範囲化させる議題に参加するとともに、海洋研究における今後の協力可能な分野について、これまでの成果と今後の展望を紹介した。